

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市西与賀小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習等に主体的に取り組む態度に、個人差が大きく不十分な点がある。 友達に優しく接する意識はあるが、実際に行動できていない児童も多い。 早寝早起き朝ご飯等の基本的な生活習慣について向上しつつあり、継続して取り組む必要がある。
2 学校教育目標	自ら学び、共に生きる西与賀っ子の育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた、人と関わる力を育成する。 家庭学習に主体的に取り組む態度を醸成する。 業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減を徹底する。

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
●学力の向上	●全職員による授業の構成についての共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師(A:80%以上、B:70%以上、C:70%未満)	B	●単元毎や必要に応じて「ふり返し」を行うことができている。 ●授業を見合うことはできなくても、学年や教科担当などで授業についての話し合いを密にしている。 ●ZOOMなどを活用し、職員室や教室などで気軽に授業を見られるようにしている。	B	●88%の職員が、学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成することができた。しかし、県調査結果では、県平均を下回る学年、教科があった。 ●ZOOMによる授業公開等を通して意見などを職員室後ろに掲示し、授業実践の取組を共有することができた。	B	●zoom活用による授業公開等が、学力向上につながっている。 ●マイプランの指標達成に向けて、日々先生方が努力されている。 ●具体的な取組が把握できていないので、評価が難しい。 ●学年によって宿題の量などが異なる。最低ライン(共通課題)があるとよいと思う。	●学力向上対策コーディネーター ●研究主任		
	○読書指導の充実	○貸出冊数 低120冊、中100冊、高80冊 ○学校評価アンケート「進んで読書していますか」の回答について、進んでいる児童(A:80%以上、B:70%以上、C:70%未満)	B	●朝の読書タイム(8:00～8:15)を毎日行う。 ●あしのご読み語りとして、地域の方や保護者の方に月に1回読み語りに来ていただく。 ●家読を学期に1度程度実施する。	B	●朝の読書タイムはだいたい達成できている。 ●あしのご読み語りは、1学期はコロナ禍のためできなかったが、2学期からは月に1回行っている。 ●家読は昨年度より提出率が上がり、家庭との連携が図れている。	B	●貸出冊数を全ての学年で達成することができた。また、朝の読書や家読などの学校の取組を家庭にも理解してもらうことができた。 ●貸出冊数は達成しているものの、児童用のアンケートで、「進んで読書をしている」と答えた児童は80%だった。自主的な読書の取組や読書の質を高める必要がある。	●読書指導 ●図書教育担当		
	○主体的に家庭学習に取り組む態度の醸成	○家庭学習の習慣化ができている児童90%以上	B	●毎週末必ず自学に取り組み、内容のよいものを掲示し、児童に達成感を味わわせる。 ●各学年に目安となる家庭学習の時間(学年×10分+10分)を示し、生活パワーアップアンケートで確認し、その都度改善を図る。	B	●自学は3年生以上で取り組んでいる。毎週、よく書いている児童のノートを各教室に掲示し、月毎に全校掲示板でお披露目している。 ●低学年30分・中学年50分・高学年70分の家庭学習の時間を示した。6月の生活パワーアップアンケートでは76%の児童が達成していた。昨年度の結果より多かったが、さらに達成感を味わえるようにしたい。	A	●毎月初めに自学の全校掲示をして放送で全校に紹介することで、他学年の取組を参考にしたり、低学年も掲示板を見に行ったりするなど、学習への意欲が高まった。 ●保護者アンケートで「家庭学習にきちんと取り組んでいる」の割合が90%以上と、家庭学習の習慣化ができている。11月の生活パワーアップアンケートでは家で決められた時間を学習したと答える児童は66%だった。	A	●「家庭学習の習慣化」が90%と高く素晴らしい。 ●子供たちに自学の意識ができていることがすばらしい。 ●家庭学習に関するアンケート結果や先生の評価と、実際に隔たりがあるように感じる。 ●自学の取組で、得意分野だけでなく得意な教科にも挑戦できるような手立てがあるとよい。	●知づくり部 ●体づくり部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○保護者アンケート項目「学校は子どもたちに思いやりを育てているか」の評価達成率を90%以上にする。	B	●フリースクールデーで、全学年「ふれあい道徳」を実施する。 ●学校からのおたよりで、道徳の学習の様子などを保護者に知らせる。	B	●授業参観の機会が少なく、「ふれあい道徳」はできていない。代わりに、家読の期間を活用して、親子で道徳の教科書を読んでもらった。親の体験談や気持ちを伝えられたという声が寄せられた。 ●道徳だよりを発行し、学校行事の中で子供の姿を紹介し、目指すことなどを保護者に発信していた。	A	●家読活用の「おうちde道徳」道徳だよりなどで子どもたちの心の成長に向けて機会を設けた。保護者アンケートで「学校は思いやりを育てているか」に対する肯定的回答は92%。児童アンケートで「友だちにやさしくしている」に対する肯定的回答は96%。教師アンケート「道徳の授業の実践がいじめ防止への対応に対する肯定的回答は90%であった」。	A	●「命」「他者への思いやり」などの啓発は何度でも必要だ。 ●おうちde道徳の取組はとてもよいと思う。 ●ゲームやYouTube等の影響が、言葉遣いの悪さが気になる。	●心づくり部 ●道徳教育推進委員
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止のために対応ができていると回答した教員90%以上	A	●毎月1回保護者向けの「いじめのいのちのアンケート」を実施し、子ども向けに「おしえてねアンケート」を実施し、児童の気持ちの把握に努める。 ●教育相談協議会などで、支援の必要な児童について学校全体で見守るための情報交換をする。	A	●毎月一回保護者向けの「いじめのいのちのアンケート」子供向けに「おしえてねアンケート」を実施し、それを基に聞き取りを行い、いじめの早期発見・早期対応に取り組むことができた。 ●毎月教育相談協議会を行い、支援の必要な児童についての情報交換をして、学校全体で見守る体制を整えて、教育活動に取り組むことができた。	A	●成果指標に93%と、いじめ防止に向け真摯に取り組むことができた。 ●毎月の保護者への「いじめのいのちのアンケート」実施により、子どもの生活を、保護者をまきこんで丁寧に見守っているという取組になっていた。また、子どもへの「おしえてねアンケート」「学校生活アンケート」の実施及び聞き取りにより、児童の人間関係の状況などを詳しく把握でき、いじめ未然防止に役立った。	A	●毎月のいじめ・命のアンケート活用が、いじめ未然防止や早期発見・早期対応につながっている。児童の本音が聞ける体制づくりをこれからもお願いしたい。 ●いじめに対する危機管理は評価できる。	●生徒指導担当 ●教育相談担当
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「望ましい生活習慣の形成」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ③「安全に関する資質・能力の育成」	①「家でテレビ・ゲームの時間が1時間以内」の児童を80%以上にする。 ②「残食率を0.3%以内、「好き嫌いがある」児童を20%以内にすること」 ③(学校独自成果指標)児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	B	●生活パワーアップアンケートをもとにして、データを算出し、児童や家庭に向けて発信することで啓発を図る。 ●食べ残しがあるかどうかを給食委員会が調べて、昼の放送で全校に発信することで、残食を減らすように意識を高めさせる。 ●交通安全委員会、交通安全教室、帰りの誓いの唱和に取り組み、交通安全の意識を高めさせる。	B	●6月のアンケート結果では、成果指標①が64.8%だった。データから読み取れることを家庭に向けて発信した。今後は、啓発とともにフォームなどのアンケートアプリの利用も模索し、回収率を上げたい。 ●中間報告時点で残食率は0.46%だった。引き続き定期的に放送等で全校に呼びかけていきたい。 ●児童生徒の交通事故は0だった。取り組みを続けて、引き続き交通安全の意識を高めたい。	B	●成果指標①が59.4%と、6月のアンケートより0.5%減少していた。春休みのくらしの資料に、ゲームの使用について啓発する内容を載せる。 ●残食率は0.4%である。「好き嫌いがある」は18%と目標達成している。 ●児童生徒の交通事故は今年度は0件だった。今後も取り組みを行い、交通安全の意識を高めていく。 ●保護者からの学校評価は、交通安全対策に努めていると答えている割合が90%以上である。	B	●青パトに手を振ったり、近寄ってきたりする児童が増えたように思う。青パトが地域にとけ込み、地域全体の意識の向上に繋がればと思う。 ●家庭での時間が増え、ゲーム・テレビの視聴や食生活について気がかりである。児童の健康のためにもルール作りが不可欠である。また、ゲーム以外の楽しみに気付かせる取組を模索していく。 ●偏食をなくすのは大変だが、頑張って食べようとしている子供がいることが心強い。	●体づくり部 ●食教育担当 ●安全教育担当
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務等時間の上限を遵守する。	B	●個々の職員が、業績評価に時間外勤務削減の方策を記述する。 ●各部会等での振り返りを生かして、すぐに来年度の計画を策定する。 ●会議や研修等のタイムマネジメントに努める。 ●定時退勤日を徹底する。(毎週金曜日)	B	●昨年度比、時間外勤務時間が平均8時間削減。 ●会議資料のペーパーレス化を徹底した。また、校時表の見直しを行い、会議や研修等の時間を十分に確保するなど、課後の時間を効率よく運用することができた。 ●毎週金曜日の他に学年ごとに定時退勤日を決め、実行している。今後は職員一人一人がスケジュール管理能力を向上できるように、管理職が個人の見取りを行い、個別に支援・指導を行う。	A	●時間外勤務の平均が29時間で、通年で上限45時間を超えることなく削減を図ることができた。 ●次年度に向け、更なる業務効率化の推進をめざし、3部会をはじめとする業務分掌の見直しや職員の配置数を見直しを行う。また、業務量の偏りを是正し、個々のスケジュール管理能力の向上を図る。	A	●限られた時間での業務は大変だと思う。引き続き業務改善に取り組んでほしい。 ●勤務内容のメリハリは出てきたのではないかと。今後も継続して取り組んでほしい。 ●業務の効率化につながるCSの活動をもっと模索して、先生にも自分の時間を大切にしてほしい。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
◎志を高める教育	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力し、進んで地域に関わろうとする気持ちを高める教育活動	◎将来の夢や目標をもつ児童90%以上 ◎地域の行事等に進んで参加する児童75%以上	B	●キャリアパスポートを活用し、授業等を通して定期的に見直しを図る。 ●公民館と連携し、児童が地域行事等に参画しやすい環境を整える。	B	●キャリアパスポートの活用は、概ねできている。 ●コロナ禍で地域行事参加の目標は未達成である。公民館のイルミネーションや郷土カルタづくりなどの地域行事について、教育課程への組み入れを視野に入れながら、これまでとは違う形での参画に取り組み始めている。	B	●児童アンケートより、成果指標「将来の夢」が90%で数値目標を達成できた。次年度はキャリアパスポートの活用を通じ、単なる職業教育ではないキャリア教育につなげていきたい。 ●今年度は「地域の行事」が48%と目標値を下回った。次年度は学校運営協議会等の協力を得ながら、コロナ禍でも実施可能な地域参画を教育課程に明示し、児童が地域に関わっていることを自覚できるように整備していく。	B	●今年度はコロナに振り回され、地域行事ができなかったが、対策を考えながら児童が安全に参加できるようにやっていた。 ●コロナ禍でも、公民館のイルミネーションづくりや郷土カルタづくりで学校と協働できたことがよかった。 ●将来の夢や目標をもっている児童の割合が高いのに驚いた。健康で元気な子供に育つことが一番だと思う。 ●郷土を愛育、郷土に貢献していく人材を育てる教育をめざす。	●管理職 ●コミュニティ・スクール担当

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育	<ul style="list-style-type: none"> 全評価項目において、十分またはおおむね達成できた。 コロナ禍の取東が見えない中、様々な教育活動において「出来ない」を「どうすれば出来るか」に変えていく必要がある。地域連携については、教育課程に明示し、児童自身が地域とのつながりを実感できるように各学年や教科等のカリキュラムを編成する。 次年度の課題【学力の向上】①マイプランの積極的活用を推進する。 ②単元を通してつけるべき力を明確にし、その獲得に向けた課題を教師一人一人が把握する。その課題を児童自身が意識して学習に向かう授業づくりを行う。 【心の教育】気持ちのよい挨拶や言葉遣いなど日常的な指導を通して、他者を思いやる心や社会性の醸成を図る。 【健康・体づくり】小学生としての望ましい生活習慣の獲得(ゲームやテレビの視聴時間、家庭での読書、生活リズム:早寝早起き等)をめざす。
5 総合評価・次年度への展望	